



〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階  
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : http://www.asachu-rc.jp

## 2012 - 2013 年度テーマ

R.I. テーマ 「奉仕を通じて 平和を」 R.I. 会長 田中 作次  
地区ガバナー 石川 正一  
クラブテーマ 「クラブライフの充実で、ロータリーの魅力を語ろう!」  
クラブ会長 原田 毅

## 本日の卓話

「今、求められる人間力」

明治大学名誉教授 経済学博士 百瀬恵夫様

## 今後の卓話予定

10/24 「あなたにとって職業奉仕とは？」 上原洋一会員

## 前回 (10/10 1288 回例会) の記録

### 来訪者紹介

◆ゲスト 1名 地区米山奨学委員長 東京武蔵野R.C. 友野英三様  
◆ビジター 0名

### 出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
46名	1名	4名	36名	6名	85.71%	1286回例会修正 欠席4名・出席率90.48%

東日本大震災で被災された皆様に一日も早い平和と復興がおとずれますようにお祈り申し上げます。このような時こそ、我々ロータリアンは『五大奉仕』を実行・実践しましょう。明日の日本と世界はみんなの手の中に！

## 会長報告 <原田会長>

・山中教授のノーベル賞受賞を心よりお祝い申し上げます。戦後、日本人を勇気付けた湯川博士の受賞に匹敵する、3.11後の山中教授の受賞であったと思います。昨日の「天声人語」に依ると、山中教授のこの偉業は、今後の功績を考える時、其のまだ見ぬ功績は「日本代表」の域を超えて、人類史に刻まれるかもしれないそうです。整形外科医志望であった研修医時代、手術が下手で、いつも「ジャマナカ」と蔑称で呼ばれていた山中さんは遂に臨床医をあきらめ、研究医として渡米したそうです。帰国後、研究医としてのポストが無く、1999年、研究断念寸前で奈良先端技術大学院大学助教授の職を得たものの、研究費は300

万円ほどで、3名の助手しか抱えられない状況だったようです。そして2003年、国の研究費配分の審査で、プレゼンで作成したユニークなイラスト（受精卵が成長した胚や腫瘍の出来たマウスが涙を流す図柄）が、説得力に拍車を掛け、約3億円（5年分）の研究費を獲得するきっかけになったそうです。その後、08年には年間40億、09年には別途50億（5年間）の研究費を獲得し、研究スタッフの陣容も250名を数える現在だそうです。

iPS細胞の凄さは、クローン技術やES細胞技術と異なり、「ありふれた自分の細胞」を使って一旦体細胞まで分化した細胞を「初期化」させ、あらゆる組織や細胞になりうる全能的な能力を取り戻す事に成功し

[〈次頁へつづく〉](#)



2012年10月17日

第1289回例会

会長 原田 毅  
幹事 宮村 義男



たという事のように。

通常、受精した細胞は、成長するにつれ、様々な組織や臓器の細胞に分化し、次第に老いて行きます。一方向にしか進まないと思われていたこの過程を逆戻りさせたのが、山中教授の研究です。

全能性（万能性）；一つの細胞が固体になる能力の事。細胞の分裂が進むに連れてだんだん衰えてくる。

今まで不思議だと思っていた事は、人体は60兆の細胞で出来ていると言われますが、もともとそれらの細胞は全く同じもので、各部位に必要なスイッチのON、OFFで心臓は心臓に骨は骨にと形成されて行く

と言う事を聞いていました。

サムシンググレートで有名な村上和雄さんに依りますと、その細胞一つをゼロから作り出す事はいまもって不可能だそうです。世界のバイオ学者が全員集合しても、世界の国家予算を全部集めても、細胞を1個、元から生成することさえ出来ない。そしてこれは科学の限界と言うより生命が凄すぎると言う事のように。子殺し、自殺、いじめ等々、今ほど生命が軽視されている時代はありません。だからこそ、この研究を元に、今こそ命の尊さを再認識すると共に、世界のためへの実用化が1日も早くなされる事を念願して止みません。

---

### 幹事報告<藤掛前幹事>

- ・11月14日のIMの出欠をお願い致します。今回は岩田さんが発表者です。ぜひ皆で参加し応援したいと思います。
- ・東京江東ロータリークラブより50周年の記

念誌が来ております。クラブ事務所にありますのでご覧下さい。

- ・東京後楽ロータリークラブより例会変更のお知らせが来ております。こちらもクラブ事務所にありますので、ご確認下さい。

---

### 2012年~2013年度 第4回理事・役員会報告

#### <審議事項>

1. 9月度会計報告…………… 承認
2. クラブ細則改定案について…………… 再検討
3. 10月31日臨時休会について…………… 承認

#### <協議事項>

1. 会員増強の現状 ……………  
伊石増強委員長より現状についての説明があった

#### <報告事項>

1. IM「我がクラブ自慢」について……………  
岩田会員による「心のバリアフリー」
2. 前期クラブフォーラム開催について……………  
例会にて報告済
3. 1300回記念例会について…………… 検討

---

### 委員会報告

#### <ロータリー情報委員会 古谷副委員長>

- ・第1回炉辺会合のご案内  
本年度第1回の炉辺会合を以下の通り実施させていただきます。会員の皆様の忌憚のない意見を頂きクラブの親睦と活性化のために役立てたいと思っております。

〈炉辺会合のテーマ〉

- 1) 欲しいサークル、作りたいサークルは

有るか？

- 2) 貴方にとってのロータリーの魅力とは、或いは不満とは？

グループについては初の試みとして年齢別に分けてみました。炉辺会合の報告会は11月21日例会となっておりますので、10月22日(月)~11月9日(金)の期間に開催してください。

## 《気仙沼に於ける第 2580 地区ローターアクトの支援活動についての活動レポートについて》

地区ローターアクトによる「気仙沼市における仕事創出プロジェクト発表会・ヒアリング活動」のレポートを皆様に配布させていただきます。発表会の模様と併せて、気仙沼復興商店街「南町紫市場」でのヒアリングの模様。また、地区ローターアクトが支援をしている水産加工会社の有限会社カトーさんを訪問し工場見学と今後の販路拡大について打合せの様子が掲載されています。ご覧いただきまして、ローターアクトの活動の一端を知っていただければと思います。

＜報告者：藤掛靖元＞

2012年9月29日(土)～30日(日) 場所：宮城県気仙沼市

第 2580 地区ローターアクトは 9 月 29 日から 30 日にかけて 6 名にて気仙沼市を訪問し、今年 5 月より企画を練ってきた気仙沼市の仕事創出プロジェクトのプラン発表、また現地の仮設商店街と水産加工会社よりヒアリング調査を行いました。

プラン発表会では、販路の開拓・拡大に焦点を当てたものと人材育成に焦点を当てたもの、計 4 つのプロジェクトについてプレゼンテーションを行いました。会場には気仙沼南ロータークラブ、気仙沼南ローターアクトクラブを始めとし、古川東ローターアクトクラブ、水沢東ローターアクトクラブ、東京板橋セントラルロータークラブ、東京浅草中央ロータークラブの会員の方など 25 名の方にご出席いただきました。また、参加者の皆さまからは各プロジェクトに対する忌憚ないご意見をいただくことができました。



プラン発表会



気仙沼復興商店街「南町紫市場」にてヒアリング

また、気仙沼復興商店街「南町紫市場」を訪問、商店街の管理・運営に携わっておられる坂本副理事長に、設立の経緯や現在坂本氏が抱えている商店街の課題などについてヒアリングをさせていただきました。ローターアクトとして今後復興支援を行っていく上で、注意すべき点や現地の事業者の方々との関わり方など大変参考になるお話しを伺う事ができました。

さらに、気仙沼の水産加工会社 有限会社カトーよりヒアリングと工場の見学をさせていただきました。同社は震災の影響により元請け会社が津波の被害に合い、仕事量が激減したことで新しい販路の開拓を喫緊の課題とされていました。また、実際に同社の水産加工品の味見をさせていただき、それぞれの商品の特徴やこだわりについても大変丁寧にお教えいただきました。

ローターアクトの気仙沼仕事創出プロジェクトにも強い関心を持ってくださり、今後東京での販路開拓・拡大という面で支援をしていきたいと考えています。



有限会社カトーにて工場見学・ヒアリング

今後は、プラン発表会でいただいたご意見やそれぞれのヒアリングで得た情報をもとに、各プロジェクトの実行計画を立て、実行に移していきたいと考えています。なお、プロジェクトは長期的な取り組みとなります。今後ともローターアクトの支援活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## ニコニコボックス

＜海内、山尾、原田、藤掛＞

・友野英三様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

＜天笠、山尾、海内、古谷、太田、関原、岩戸、原田、藤掛、中村、上原、松本、藤田＞

・山中教授ノーベル賞受賞!! 世界初のiPS細胞作成で快挙。一日も早い医学への応用を。

＜柘＞

・秋本番、朝晩の気温の変化にご注意。体調を崩さぬよう、くれぐれもご自愛下さい。

＜永井＞

・100%出席の表彰をして戴きまして誠に有難うございました。

・7日、大安吉日に息子が長い長い(永井、永井)赤い糸をたぐりよせ、待ちに待った結婚

式を無事済ませる事が出来ました。矢野さん、小池さん、ありがとうございます。

＜山尾、立野＞

・新入会員歓迎会を開催して頂き有難うございました。素晴らしいサプライズでした。感謝感謝です。

＜斎藤、伊石、浜中、高木＞

・北分区ゴルフ大会予選会の2次会の残金をニコニコします。

＜小林(雅)＞

・先週は体調を崩し北分区ゴルフ予選会を欠席いたしました。誠に申し訳ありませんでした。

＜天笠、井田、太田＞

・東日本大震災

頑張ろう東日本!! 立ち上がれ日本!!

## 「よねやまの歴史、現状、展望」



第2580地区米山奨学委員長  
東京武蔵野ロータリークラブ

友野 英三 様

本日は、米山奨学事業の歴史、現状、将来展望を改めて共有させていただく機会としたいと思います。よろしくお願いいたします。

ロータリー米山記念奨学事業の歴史、これはサブタイトルのとおり、ロータリアンの諸先輩からの貴重な宝物、これが「よねやま」なのではないかと考えます。米山奨学制度は、誤解されている向きも時折あるのですが、米山梅吉氏が始められた事業ではありません。

米山梅吉翁は1946年に78歳で逝去なさっていますが、よねやまのスタートは1952年です。当時の東京RCの会長、古澤文作氏が、大連宣言の起草者として著名な方ですが、「米山基金」の試案を発表されました。「須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。ゆえに吾人は道義を無視していわゆる事業の成功を獲んとする者に与せず。自らを利するに先立ちて他を益せむことを願う。世人の潔しとせざるに乗じて巨利を博すこれ吾人の最も忌むところなり。」格調高い思想に、「よねやま」の趣旨或いはロータリー精神のエキスを感じ取ることができます。最初は東京RC内で、米山ファンドとして、2か国：タイとインドからの奨学生への奨学金として支給されたのですが、この試みはすばらしいということで徐々に日本全国のロータリーの間に広がってまいります。1956年東日本の二つの地区大会において、「ロータリーの国際奉仕として最もふさわしい企てであって、その連続性が望ましい。財団法人として全国的な組織となすべきことを茲に決議する」とされたのを受けて、1957年には「ロータリー米山奨学委員会」という全国組織が樹立されます。このように、米山奨学制度とは、ロータリーの世界のジャパンオリジナルなのです。

このような経緯を辿りながらやがて日本全国の多地区合同奉仕活動となった「よねやま」は、国際ロータリー本体からも徐々に高い評価を受けるようになります。1954-55年度のRI会長であり、「四つのテスト」の創案者として名高いハーバート・テラー氏が第60地区の大会の挨拶で、東京RCの功績を讃えました。「あの立派な奨学金制度のことであります。私は、その奨学金によって日本に勉学に来られた二人の青年にも会いましたが、この立派な仕事に対し、深く感謝

いたします」。1967年には、財団法人ロータリー米山記念奨学会（今年からは公益財団法人となりました）が設立されました。

次に、「よねやまの現状」に移ります。財団法人ロータリー米山記念奨学会の設立趣旨は、日本で学ぶ外国人留学生に奨学金を支給し心と心の交流を通して、将来、日本と世界とを結ぶ懸け橋となる人材を育成する、ということにありました。これはまさに、ロータリーが目指すところの、世界の親善と平和へつながる事業を志向したものです。こうした確固たる理念をもった米山奨学制度は現在、日本全地区による多地区合同奉仕活動となり、奨学団体としてはこれまでに120ヶ国、約16,400人の留学生を支援してきた60年の実績を誇る民間最大のものとなりました。本制度の何よりの特徴は、「世話クラブ・カウンセラー制度」にあります。つまり、お金だけ差し上げて終わり、というのではなく、ロータリアンとの心と心の交流を通して人材を育成し、併せてロータリー精神を理解してもらおうというものです。となりますと、困窮している人を助けるのではなく、経済的事情に関係なく、優秀な人材、将来国のリーダー的役割を担い、当該国と日本との懸け橋となって世界平和の実現に貢献できる人材が奨学生として最も相応しいということになってまいります。当地区の考える奨学生選定基準もこれをしっかり反映したものとなっています。さて、ここでもう一つの現実、寄付金の減少について述べねばなりません。これまで縷々述べたように、先輩ロータリアン達が心血注いだ素晴らしい贈り物、これが「よねやま」なのですが、これを機能させるには、原理的に、かなりの額の金員が必要です。

奨学会の趣意書に、「この法人は、全国ロータリークラブの寄付を主たる財源とし、ロータリー会員によって運営され、ロータリー目的達成に寄与することを目的としている。」とあるように、米山奨学金は全国のロータリアンからの寄付を集め、これを奨学生に進呈するということを、利殖等考えずに、愚直なまでに60年間行ってきたものです。裏を返せば、寄付金の集まりが滞り始めると途端に奨学金の支給に支障が出てくる、ということです。図にある通り、昨今の経済不況、デフレ進行、ロータリアンの減少等が要因となって、寄付金の減少がずっと続いているのが残念ながら現実です。奨学金の額も大学院生：15万⇒14万円、大学生：12万⇒10万円に、奨学生の数も1100人⇒800人⇒700人と、痛切な思いをもって縮小を余儀なくされてきております。個人平均寄付金額としては当地区は第6位ということになっておりますのは図のとおりです。

さて、次に、「よねやまの展望」です。将来への希望というサブタイトルです。元米山奨学生たちの活躍をご紹介します。ロータリアンになった学友もいるし（例：韓国と台湾でガバナー輩出）、かたや学友会活動が世界各地で展開されています（台湾、韓国、北京、上海）。恩義に厚く感謝する学友から毎年寄付が寄せられている例、社会奉仕に取り組む学友たち（韓国、ラオス、ネパール他）など、実に多彩な素晴らしい人たちが素晴らしいことを行っている、といえるでしょう。こうした素晴らしい制度である米山を何とか盛り立てて次代に繋ぎたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。